

ちから スポーツの力 ～する・みる・ささえる～

伊賀市スポーツ少年団の活動

◆スポーツ少年団とは

スポーツ少年団は、子どもたちがスポーツを楽しむ、活動を通して多くのことを学び経験することを目的に、全国で約31,000団が活動しています。伊賀市では野球、サッカー、バレーボール、テニスなどの種目を行う38団が伊賀市スポーツ少年団に所属しています。

団員はいつでも募集しています。対象は原則小学校1年生からですが、団によっては対象学年が異なる場合もあります。

活動内容や活動場所、時間は各団によって異なります。また、どの団も運動が苦手でも大歓迎していますので、きっとぴったりの団が見つかるはずです。

◆スポーツ少年団の活動

伊賀市スポーツ少年団ではサッカー、野球、バレーボール大会に加え、体力測定やカロリーニングなどのレクリエーション競技を行うスポーツ少年大会、駅伝競走大会を行っています。

さらに三重県大会や全国大会もあり、そこで活躍するとプロ選手になることも夢ではありません。7月に開催されたE-1サッカー選手権に日本代表として出場した町野修斗選手も伊賀市スポーツ少年団に所属していました。

興味を持った人はいつでも伊賀市スポーツ少年団事務局までご連絡ください。

【問い合わせ】 スポーツ振興課

☎ 22-9635 FAX 22-9694

✉ sports@city.iga.lg.jp

ここスポ 伊賀市スポーツ少年団ページ



明日に向かって ～差別をなくしていくために～

「なかま」としてつながる ー学校教育課ー

伊賀市には「伊賀市学校人権・同和教育部会」という組織があります。部会を構成するのは、市内の29小中学校と桃青の丘幼稚園です。同和教育の早期解決をめざし、学校同和教育の充実と発展のために2005年に設立しました。設立当時からこれまでの間、社会情勢の変化に伴い、人権教育をとりまく状況は、年々変わってきています。しかし、ずっと変わらないものもあります。それは人権教育で大事にしている「なかまづくり」です。

伊賀市学校人権・同和教育部会では、「なかま」について、「それぞれの子どもたちに個性があり、生活背景があり、さまざまな悩みをもってくらしている」ということを、お互いわかり合ったうえでの「なかま」としています。そして、子どもたちが書いた日記や作文を載せた通信を発行したり、自分のくらしを語ったりする場を通して、「なかま」になっ

ていくことをめざしています。こうした取り組みの中では、思わず笑ってしまうような話や涙が出てしまうような話を聞いたり、「そんなことがあったんだ」と今まで知らなかった友だちの姿を知ったりすることがあります。このような取り組みを続けることで、自分自身を隠さなくてもいい、安心できるクラスになっていきます。そして「今まで言えなかったんやけど」と自らを語る子どもたちも出てきます。「なかま」としてつながった子どもたちは、なかまの悩みごとやピンチを放っておきません。それが「差別を許さないなかま」「差別をなくすなかま」となります。

「人権の問題は、その問題に悩んでいる子の隣に座っている私の問題」というように、人権問題を自分のこととしてとらえられる「なかまづくり」の取り組みを学校や園では大事にしています。

人権について考えるコラムです。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ

伊賀市の文化財 143

県指定有形文化財（建造物・工芸品）
常住寺閻魔堂（附棟札及び同写）と木造厨子（附木造閻魔坐像）

常住寺閻魔堂は、長田の丘陵上、上野盆地を東に見る、見晴らしのよい高台にあります。常住寺の歴史は古く、室町時代からその存在が知られていて、天正20（1592）年には、常住寺の閻魔像が元興寺（奈良市）で開帳されました。

閻魔堂は、万治3（1660）年に藤堂藩二代藩主高次により、生母松寿院の菩提を弔い、十三回忌に合わせて建てられました。建物の規模は、桁行3間、梁行3間で四角に濡縁が付きます。屋根は入母屋造ですが、大棟が短くて妻が小さいのが特徴です。外面は全体に弁柄（赤色の顔料）で塗られ、垂木や肘木、斗などは部分的に胡粉（白色の顔料）で塗られています。

内部は、閻魔像が納められた厨子を安置する内陣と、礼拝する外陣からなります。内陣は畳敷きで格天井

井、外陣は板敷きで竿縁天井とし、本尊の空間と、礼拝する者の空間を明確に区別しています。内陣の中央は円柱の太い柱で区画されて華やかに飾り立てられ、その内側に須弥壇を設けて厨子が置かれています。厨子は、三重となっている荘厳なつくりで、外厨子は入母屋造の宮殿形で外面は白木ですが、内側壁面に千体阿彌陀仏が祀られています。中厨子は外側が黒漆で内側は極彩色となっています。そして、奥厨子の内部には地藏菩薩と侍者の立像を従えた木造の閻魔坐像が安置されています。



常住寺閻魔堂



木造厨子の内部

文化財課
☎ 22・9678 FAX 22・9667

IGAMONO
伊賀

IGAMONO
セレクション

No.31

【問い合わせ】 商工労働課 ☎ 22-9669 FAX 22-9695

その昔、伊賀流忍者が敵地に忍び込み、スパイ活動に専念した時の携帯食料として最適だったと言われているのが「かたやき」です。

おそらく、「かたやき」はかさばらず、食べ応えがあり、長期間の保存ができたからでしょう。

今の「かたやき」は、現代の人の嗜好に合わせて、製法改良され、伊賀特産品として好評を得ています。

歴史と文化が薫る城下町・伊賀市にふさわしい名物菓子「かたやき」を、口溶けの良さや香ばしさにこだわり、創業以来変わらぬ独自の製造方法で作り続けています。



かたやき



森本芭蕉堂 加藤 拓真さん

当店は JR 伊賀上野駅より徒歩2分のところにあります。明治30年創業で、120年以上前から地域の皆さんに親しまれる商品を販売しています。

創業以来変わらない製法にこだわり手作業で製造しています。

かたやきの種類が豊富で、厚みを変えることで堅さに変化をつけたり、ピーナッツやえびを入れるなどバラエティー豊かな商品を取りそろえています。

